

日本の学童ほいくニュース です

2006年11月 東京都学童保育連絡協議会 豊島区南大塚3-37-10
 TEL 5951-2789 FAX 5951-2795
 URL: <http://www.gakuho-tokyo.jp> E-mail: gakuho@a.toshima.ne.jp

全国学童保育研究集会在10月28日(土)、29日(日)に愛知県で開催されました。参加者の皆さんご苦労様でした。全国の学童保育のいろいろな状況を知り、東京の現状を伝えることができたことと思います。また、元気をもらうことができたでしょうか?来年の全国集会是、東京で開催されます。ご協力をお願いします。

今月号の一押し

その1

特集・子どもを守ろう 地域のなかで 子どもの安全対策をどう考えるか

早稲田大学 喜多 明人

学校現場や登下校中、あるいは、それ以外でも子どもたちが犠牲となる痛ましい事件が起きています。学童保育の現場にも、毎日のように、不審者情報のFAXが届き、一体どのようにして子どもたちを守っていったらいいのか、緊急の課題となっています。子どもたちに気をつけるように話をしますが、「人を信じてはいけません」ということを伝えているのですが、何だかやるせない思いでいました。喜多先生も人間不信を前提とした『安全対策』がすすんでいることを危惧しています。警察主導の「監視・隔離型」の安全対策とは異なる、子どもの権利保障の視点に立った「協働・開放型」の安全対策に努めるべきだと提案されています。そういう意味で学童保育は、大切な役割を果たしているのではないのでしょうか。

その2

特集・子どもを守ろう 地域のなかで 危機管理の要はコミュニケーション

エンパワメント・センター主宰 森田 ゆり

防犯ベルが毎日鳴っているー“またあ!” “誰か鳴らしてるのー” 電池切れで“ス・ス・ス・ス・ス……” とかすかな音しか出なくなった防犯ベルもあったりで…。 “こんなことで本当に意味があるのだろうか” と思っていただけから、森田ゆりさんの “それよりは自分のなかに防犯ベルをもたせてほしい

のです” に納得。さらに路上で、不審者から暴力にあうこととともに、もっともっと多くの子どもたちが身近な人からの暴力で悩み苦しんでいると指摘されています。現在、子どもたちの登下校の見守りボランティアをしている100万人の大人たちが、子どもの悩みや苦しみに真剣に向きあってくれたら!と。“安全を守る”ではなく“子どもたちを守る”ということを考えたいです。

11月号の特集

子どもを守ろう 地域のなかで

子どもの安全対策をどう考えるか

早稲田大学 喜多 明人

いつもの街を親子で歩いて……

足立区立千住児童館学童保育室職員 鳥海 喬子

学童っ子の安全のために

岡山市たけのこ学童保育保護者 丸橋 智可

危機管理の要はコミュニケーション

エンパワメント・センター主宰 森田 ゆり

「子どもの安全対策」について思うこと

読者から



今月の都連協人

特集・子どもを守ろう 地域のなかで
いつもの街を親子で歩いて……
足立区立千住児童館学童保育室職員

鳥海 喬子

特集・子どもを守ろう 地域のなかで
「子どもの安全対策」について思うこと
豊島区保護者 曾部 育子

読者のひろば
あえて辛口で書きますが
文京区保護者OB 岸 雅子

ほいくニュース
について

- ① ほいく誌の感想、このニュースへの意見、いろいろお寄せください。
- ② 作り手も募集しています。

今月号の一押しその2

その1

わたしは指導員

一大決心でとびこんだ子育て支援の道

加賀市にしき父母の会学童部 木田直秀

「人間はみな利害関係で動く」という上司の言葉に疑問を感じ、もっと人間らしいつながり方、生き方があるのでは…と学童保育の道に飛び込んだ木田さん。でも待っていたのは、子どもたちにバカにされ、たたかれ、蹴られ、つばをかけられ…の手痛い洗礼(?) 木田さんはそれでも、大人の権力をかざして押さえつけることはせず、少しずつ子どもたちとの距離を縮めていきました。小さな子どもたちにそんなことをされたもんじゃ、フツ―は尻尾を巻いて逃げ出すところ、木田さんは毎日毎日返事がなくても「おかえりー!」と子どもたちに声をか

けていきました。その温かい姿に、いつのまにか子どもたちも木田さんを受け入れていったのでしょうね。時に子どもたちの手痛い歓迎は、指導員を大きくしていくものなのかも…。(実は私もね…あの時はキツかったなあ)

その2

「放課後子どもプラン」

全国地方自治体担当者会議が開かれました

8/29 の新聞報道は本当にビックリ!! でした。“えっ? 来年度から私たちの学童保育がなくなってしまうの? 何それ?” でもそれが、大きな間違いであつたとわかりホッとしました。「放課後子どもプラン」は、文科省の「放課後子ども教室推進事業」と厚労省の「放課後児童健全育成事業(学童保育)」の2つの総称だということです。決して2つを1つにしてしまうプランを指すのではないって…。よかった。それでも東京のいくつかの区で、既に学童保育を取り込んだ放課後事業を先行してやっているのだから安心はできません。働く親にとって、その子どもたちにとって、やっぱり学童保育は必要なんです!! その声を大切に思うひとり一人がつなげていきましょう!!

次号予告 12月号

特集・指導員—どうしてですか親とのかかわり

- ・親と指導員の信頼関係を築くために 大田堯
- ・親とのかかわりで配慮していること 指導員から
- ・指導員に信頼を寄せることになった出来事

保護者から

ずいそう

高市敦広

講座・障害児の発達保障と生活づくり

白石正久

子どもたちのまなざし

土佐いく子

試せばハマる家事のワザ

佐光紀子

カメラでこんにちは/父母会/仕事・職場のいま/わたしは指導員/クイズ/まんが/子どものひろば/読者のひろば/ほか